

目的・ボディスーツ利用状況についてアンケート調査を行い、その実態を把握すると共に、着装による整容効果と身体に与える影響についてニ・三の実験を行った。

方法・アンケートによる調査は女子学生847名で、整容効果については5名についてシルエッターによりその効果を検討、また、2名についてソフト型、ハード型のボディスーツを着装した場合の、肺活量、呼気量、衣服圧、皮膚温等の測定を行った。

結果・ボディスーツ1枚所持者は51.9%（うちソフト型所持は64.7%）で、その多くはMサイズで1～2年前より87.1%の者が、時々着用しているという結果を得た。また着用している者の68.6%は、着装時に被服圧を強く感じるとしており、その部位は腹部>ウエスト>足のつけね>胃>肩である。着装感についてはすっきりする34.5%、動作により苦しい38.0%、スタイルが良くなる12.3%であった。また、着装時に保温効果がある89.7%、整容効果がある87.1%、害がある53.9%と答えており、着装の目的では整容効果>ウエストを細くする>保温の順であった。

被服圧の比較は、ソフト型1に対してハード型1.2を示し、ソフト型所持者の多いことから身体には影響の少ないことが理解出来る。呼気量は非着装時1に対してソフト型0.94、ハード型0.92となり、ソフト型着装時に影響の少ない結果を示した。皮膚温については著明な変化は認められなかったが、着装時には暖かいというのが、被験者の一致した答であったことは、アンケートにあげられた結果と結びつく。整容効果では個人差が見られるが、胸囲、腰囲についてボディスーツ着装による変容が見られた。